

令和 6 年 5 月 31 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2019～2022

課題番号：19H00535

研究課題名(和文) 前近代ユーラシア世界における広域諸帝国の総合的研究：移動する軍事力と政治社会

研究課題名(英文) Historical research on the premodern Eurasian empires from viewpoint of mobile military elites and political society

研究代表者

杉山 清彦 (Sugiyama, Kiyohiko)

東京大学・大学院総合文化研究科・教授

研究者番号：80379213

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 33,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、前近代ユーラシア諸帝国の形成・運営のメカニズムを、王権を支えた武人集団・軍事エリートに焦点を当てて解明しようとするものである。対象として、アッバース帝国、テュルク(突厥)帝国、唐帝国の第一期、ザンギー朝、モンゴル帝国、宋帝国の第二期、ムガル帝国、サファヴィー帝国、大清帝国の第三期を取り上げ、(1)いずれにおいても軍事エリートと軍事制度が重要な役割を果たしていたこと、(2)それらは地理・文化・住民面で境界的な地域に起源することが多いこと、(3)君主や宮廷と密接に関係していたことを明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

前近代ユーラシアの諸帝国において、王権が外来性をもつ軍事集団に支えられていたこと、それらが文化・信仰・生業が混淆する境界地域に出自し、多様性・複合性を有することの実証的提示は、時代・文化圏によって切り分けがちであった従来の帝国理解を刷新するものである。さらに、これら広汎な軍事エリート・軍事制度の形態・機能の解明は、日本中近世史、西欧中近世史などの新動向と対応するインパクトをもっており、世界的な比較史につながるものである。

研究成果の概要(英文)：In our program, we attempted to carry out a comparative historical research on the pre-modern Eurasian empires focusing on their military elites and warrior groups. We made nine empires or dynasties as the subject of our research: Islamic Empire of `Abbasid dynasty, Turk (Tu-jue) Empire, and Tang Empire in the medieval period; Zengid dynasty and Northern Sung Empire in the pre-Mongol period, and Mongol Empire; Mughal Empire, Safavid Empire, and Manchu-Qing Empire in the early modern period. We clearly showed that (1) military elites and military organizations of foreign origin played an important role for each empire, (2) they generally originated in the geographical, cultural, and ethnic border areas, and (3) they closely related to monarchs and their courts.

研究分野：歴史学(東洋史学)

キーワード：帝国 武人 軍事エリート ユーラシア 王権 宮廷 移動 遊牧

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

本研究課題は、前近代のユーラシア諸地域に割拠した帝国・王朝について、その建設・運営の担い手となった武人集団・軍事エリートに焦点を当て、広域統治・多民族支配のメカニズムを多角的に解明しようとするものである。その前提となるのは、近年、イスラーム史・中央ユーラシア史を中心とし、またそれと連動して中国史においても進んでいる、ユーラシア諸地域の帝国に関する理解の刷新である。すなわち、社会経済史から政治史・制度史への回帰、支配・対立よりは統合・共存の側面への注目、民族・文化の多様性・可塑性の重視、といった潮流であり、そのような中で、軍事力の担い手となった武人集団と軍事制度についても、中東イスラーム世界のマムルークやイエニチェリ、また千戸制や八旗制といった東方の内陸アジア的軍制などの新しい研究が展開してきた。しかし、現状はなおイスラーム史や中国史など、特定の時代・地域や文化圏の範囲内での議論に止まっており、それがユーラシア規模でいかなる特徴をもち、世界史的にどのような意義をもつのか、といった鳥瞰的視野からの比較検討は、まだ十分とはいえない。

このような研究状況に対し、本研究課題の研究代表者・分担者のうち、それぞれ4名・6名がメンバーとなって実施したのが科研費基盤(B)「ユーラシア諸帝国における君主と軍事集団の展開」(平成24～26年度)・基盤(B)「ユーラシア諸帝国の形成と構造的展開 王権と軍事集団の比較的研究」(平成27～30年度)である。これらの共同研究では、8～10世紀前後のアッパース・テュルク(突厥)・唐と16～17世紀前後のサファヴィー・ムガル・大清の6帝国を取り上げ、イスラーム史・中国史、あるいは中世史・近世史といった枠を取り払って、君主と武人の主従関係と紐帯、それを支える集団意識・エートスについて共同研究を行ない、大きな成果を挙げることができた。同時に、ユーラシアの帝国といったときに欠かせないモンゴル帝国を加えて論じる必要が痛感され、そこでモンゴル時代前後の諸国を加えた3期構成として、より構造的に検討する態勢としたのが、総合的研究を掲げた本研究である。

2. 研究の目的

人類史において、特定集団の社会的・文化的一体性の護持と、それをも含む多民族・多文化・多宗教の共存との折り合いは、重要な課題であり続けてきた。およそ1990年代以来、この課題への関心の高まりの中で、歴史学においても、中核勢力が求心力を發揮しつつ、広域・多様な地域・集団を統合する複合政体である「帝国」が注目されてきた。であれば、近代以前の歴史において幾多の広域帝国が興亡したユーラシア大陸内陸域こそ、その焦点となるであろう。しかしながら、対象となる時間・空間の巨大さゆえに、ユーラシア大陸の諸帝国についての個々の実証研究は未だ充分とはいえず、また、中東イスラーム史や中国史、あるいは中世史・近世史など、文化圏や時代に分けられたまま議論されることがほとんどであった。このような状態を克服して前近代の帝国という広域・多民族統治の性格・特質を解明し、それぞれの帝国を世界史に位置づけるためには、地域や宗教・文化の枠組みを超えた視点と、共通して適用できる適確な分析視角・着眼点からの検討が不可欠である。

そこで本研究では、ほとんどの帝国において中核部に看取される、国家形成の原動力にして運営・統治の担い手となった軍事力、すなわち武人集団・軍事エリートの存在に焦点を当て、属性の多様性とその流入・移転・導入・混淆・選取の諸相とに注目して、実証・比較の両面から追究することを目指した。それを通して、各帝国の形成・展開の中核部分を構造的に解明するとともに、ヨーロッパ史・日本史などとの比較研究を可能ならしめるアプローチやモデルを錬成するこ

とを目的とした。

3. 研究の方法

本研究は、専門とする時代・地域を大きく異にする研究者が、各自の実証研究を深めつつ、それを提示しあって比較検討を行なうとともに自らの研究にフィードバックするという循環をめざすものである。とりわけ本研究の特徴は、その比較・循環の範囲が、ユーラシア大陸の東西、約 1000 年と空間的・時間的に非常に広い範囲にまたがることと、いずれの分野においても史料環境が飛躍的に向上しており、実証・比較いずれにおいても新たな進展が見込まれることである。この特徴を活かすべく、定例研究会、ワークショップ・シンポジウム開催、国内外の研究者招聘、共同海外現地調査を柱に据えた計画を立案してスタートさせた。

しかし、研究初年度末に中国から世界に蔓延した新型コロナウイルス感染症禍のために、対面シンポジウムや海外研究者招聘、共同海外現地調査が中止せざるをえなくなるなど大きな計画変更を余儀なくされ、期間を 1 年延長して実施することになった。だが、研究会・シンポジウムのオンライン化などによって、変更した計画に沿って活潑な研究活動を展開することができた。

(1)メンバーが個別に実証研究を展開するとともに定例研究会を通してその共有・討論を行なうことが基本であり、第 2 年次以降はオンライン開催に切り替えることで、むしろ高頻度に研究会・研究打合せを展開した。その代り当初想定していた外部報告者の招聘は見合わせることにしたが、第 4 年次に実施したオンライン公開ワークショップでコメンテーターを務めた鈴木直志(ドイツ近世史)、三田昌彦(インド中世史)、山内晋次(日本古代史)の諸氏から別途研究報告をいただき、比較史研究も展開することができた。

(2)本研究グループ自体が比較研究であると同時に、それ以外の諸分野との比較研究を重視しており、後述するように、初年度にメトロポリタン史学会と共催の公開シンポジウム「世界史の中の武人 越境と帝国秩序」、第 4 年次にオンライン連続ワークショップ「武人たちのユーラシア 越境・征服・統合」、期間延長した最終年度にオンライン公開シンポジウム「武人×帝国×ユーラシア 統合と包摂のダイナミズム」を開催し、研究交流と成果発信に努めた。

他方、対象とする地域・時代・文化圏を異にする専門家が共同で現地調査することの意義を重視して、第 2・3 年次にコーカサス(グルジアなど)、中央アジア(ウズベキスタンなど)の共同海外現地調査を計画していたが、コロナ禍のために最終的に断念せざるをえなかった。また、個別の海外調査もほとんどの期間不可能となった。しかし、史料の出版や電子化の進展、これまでの各人の史料蒐集活動により、個別研究の進行にはいささかも停滞はなく、上記シンポジウム・ワークショップ等での研究発表や個別論文等の形で成果を発信できた。

4. 研究成果

本研究では、前近代のユーラシア諸地域に興亡した帝国を対象として、その国家建設の原動力にして運営・統治の担い手ともなった武人集団・軍事エリートに焦点を当て、その存在形態や軍事制度の特質、また武人およびその制度・慣行の移転・伝播・導入・混淆・排除といった移動の諸相について、7～9 世紀、11～13 世紀、16～17 世紀の三期にわたって比較史的検討を行なった。これを通して、部族や信仰など結集核を有する武人集団が、ユーラシアの乾燥帯諸地域の広域帝国において、移動・越境して軍事・統治に起用され、重要な役割を果たしていたこと、その一方で故地との連絡や近い集団との紐帯を維持し続けていたこと、このような武人集団は君主の家門・宮廷と密接に関係し、家政・国政両面を支えていたことなどが明らかとなった。

これらの成果をもとに一般化して特徴をまとめると、次のようになる。

軍事集団およびその国家・地域の特徴

<p>第一期</p>	<p><u>アッパース</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 時期・来源ごとに違う ・ 世代交代ごとに新編・変動 ・ 出自・出身地は多様で、それぞれごとに異なる軍事力 ・ 軍事集団間で競合・対立 ・ 文官・定住民出身者とは提携、定住社会とは緊張関係 	<p><u>テュルク(突厥)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ もっぱら遊牧部族軍、違いは部族程度 ・ 王族と非王族人材。後者をタルカンとして広汎に起用 ・ ソグド集団を編入 ・ ソグド人の活用。定住社会出身者全般の活用は後考 	<p>唐</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 府兵は軍の半面でしかなく、行軍は有事動員 ・ 常駐の実戦軍は軍鎮体制下の羈縻州の部族軍 ・ 部族単位で流入・編成 ・ 世襲制で組織ごと再生産 ・ ソグドなど他来源を混成
<p>第二期</p>	<p><u>セルジューク～ザンギー朝</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 属人的・重層的な主従・忠誠関係の集積 ・ 複数の来源 ・ 登用の差異による対立。出自の差異は対立点でない ・ 軍事集団間で競合・対立 ・ 文官とは提携 	<p><u>モンゴル</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 王族・ノヤンが中核集団 ・ ケシク制の求心構造：人材登用、紐帯形成、側近政治 ・ 多様な来源 ・ 世襲(的任用)による再生産 ・ 文官・定住民出身者にも同様の包摂・登用法を適用 	<p>宋</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 初期は縁故・個人的紐帯で軍事力を形成・包摂 ・ 禁軍は中央がシャダ系、地方は蕃兵など内実は多文化的 ・ 将・兵とも非世襲原則 ・ 文武官の区別と文官の優位 ・ 巨額の人件費
<p>第三期</p>	<p><u>サファヴィー</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会構成は多様で流動化も進むが軍事集団はソリッド ・ キジルバーシュとゴラーム、必ずしも移行ではない ・ 世襲原則と家職的任用 ・ 集団・個人間の競合・対立 ・ 宮廷組織と密接に関係 	<p><u>ムガル</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 血統・権力(叙任権など)における王家の至尊性・優越 ・ 多様な来源と統一的制度 ・ 官位世襲や教育制度に基づかない=流動性 ・ 個人資格での出仕・黜陟 ・ 宮廷組織と密接に関係 	<p><u>大清(マンジュ)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 複合的な軍事力とマンジュ的な八旗の求心力 ・ 多様な来源とマンジュ優位 ・ 皇帝・中央政府の強い統制力 ・ 将・兵の世襲原則と再生産 ・ 文官との提携、組織への浸透 ・ 宮廷組織と密接に関係

* ■ = イスラーム王朝の拡大 ; □ = テュルク系王朝の展開 ; = モンゴルとその継承国家

(1) 具体的には、第一期においては、中央アジア出自のトルコ系・ソグド系の武人や軍事集団がユーラシアの東西に進出し、政治・軍事の動向に大きな影響を与えていた。西アジアのアッパ

ース帝国では、流入してきたトルコ系・ソグド系武人が登用されて政治・軍事を左右するようになっていき、東方では、唐に服属したトルコ系遊牧集団が、在来の部族的統治形態を維持したまま軍事力として編成されて、唐の実戦軍の主力をなしていた。これらトルコ系武人や軍事集団の系譜・移動は、テュルク（突厥）帝国の部族構成の解明の進展によって、より跡づけられるようになり、ユーラシアの東西にわたるトルコ系軍事勢力の拡散と活動の実相が明らかとなった。また、学界で注目されているソグド人の商業以外の側面についても、東西双方において、ソグド系武人の活動から具体像を提示することができた。

第二期については、前モンゴル時代における東の北宋と西のザンギー朝の軍事・武人の具体像を検討することで、中国やアラブの枠組みだけでは捉えきれない複合性とその具体的内実にせまることができた。また、それらの先行王権の後に登場したモンゴル帝国が多元的なハイブリッド国家であることは近年共通認識になっているが、大元時代の軍隊の研究を通して、越境のさまとその統御の具体像が明らかになった。

第三期の諸帝国は、ポスト=モンゴル期を経て大型化・安定化しており、強力な王権の下で、有力武人や軍事集団が広域にわたって移動・起用されていた。サファヴィー帝国では、西北のコーカサス出身のゴラム軍人が、出身地との紐帯を維持しつつ、王権に直結して地方統治に起用されるなど、地域・信仰・文化的境界を跨ぎつつ双方向的に活動していた。中央アジアからインドを征服したムガル帝国、マンチュリアから中国を征服した大清帝国は、もとより混成的・外来的な軍事集団による王権であるが、その外来性・複合性を核として王権・軍事力の求心性を維持し、広域・多様な帝国の統治に当たった。それゆえ、王権・宮廷と武人・軍事集団は密接な関係にあり、宮廷儀礼や位階制度を通して求心力の維持が図られていた。

(2)研究成果の総括・発信のためにワークショップ・シンポジウムを開催し、成果発信とともに他分野との交流・協働を展開した。まず、初年度にキックオフイベントとしてメトロポリタン史学会（東京都立大学）と共催の公開シンポジウム「世界史の中の武人 越境と帝国秩序」を開催し、日本中世史、ドイツ近世史などを交えた報告・討論を行なった。その後は、上記のようにコロナ禍の出来のため、予定していた海外招聘による国際シンポジウムなどは見直しを余儀なくされたが、当初計画を修正・期間延長の上で、第4年次にオンライン公開ワークショップ「武人たちのユーラシア 越境・征服・統合」（全3回、第1回「帝国を統べる武人たち」、第2回「“武”の多様性 動乱と征服の時代」、第3回「テュルク/ソグド・インパクト」の東西）を開催。その反響をふまえて、最終年度（延長年度）にオンライン公開シンポジウム「武人×帝国×ユーラシア 統合と包摂のダイナミズム」を開催し、日本史・西洋史、高校教員など幅広い分野の参加者を得て、成果の発信と諸分野との交流という目的を果すことができた。

本研究課題の成果は、今後の「前近代世界における武人の比較研究」や「前近代帝国の比較史的研究」に道を拓くものといえるだろう。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計20件（うち査読付論文 3件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 10件）

1. 著者名 伊藤一馬	4. 巻 40
2. 論文標題 「東部ユーラシア」の現在	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 神女大史学	6. 最初と最後の頁 53-81
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 真下 裕之、二宮 文子、和田 郁子	4. 巻 51
2. 論文標題 アブル・ファズル著『アーイーニ・アクバリー』訳注（12）	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 神戸大学文学部紀要	6. 最初と最後の頁 1*-24*
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.24546/0100487333	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 谷口淳一編、伊藤隆郎、大津谷馨、岡本恵、近藤真美、篠田知暁、杉山雅樹、柳谷あゆみ、横内吾郎（共訳注）	4. 巻 81
2. 論文標題 アフマド・イブン・ファドル・アッラー・ウマリー著『高貴なる用語の解説』訳注（14）	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 史窓	6. 最初と最後の頁 87-108
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 杉山清彦	4. 巻 1007
2. 論文標題 複合国家としての大清帝国 マンジュ（満洲）による集塊とその構造	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 歴史学研究	6. 最初と最後の頁 148-156
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 真下裕之（監修）、二宮文子・真下裕之・和田郁子（訳注）	4. 巻 49
2. 論文標題 アブル・ファズル著『アーイーニ・アクバリー』訳注（10）	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 紀要（神戸大学文学部）	6. 最初と最後の頁 57-98
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.24546/81013086	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 真下裕之（監修）、二宮文子・真下裕之・和田郁子（訳注）	4. 巻 48
2. 論文標題 「アブル・ファズル著『アーイーニ・アクバリー』訳注(9)」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 紀要（神戸大学文学部）	6. 最初と最後の頁 107-145
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.24546/81012690	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 谷口淳一編、伊藤隆郎・岡本恵・近藤真美・杉山雅樹・辻大地・谷口淳一・柳谷あゆみ・横内吾郎訳注	4. 巻 78
2. 論文標題 アフマド・イブン・ファドル・アッラー・ウマリー著『高貴なる用語の解説』訳注(11)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 史窓	6. 最初と最後の頁 115-143
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 SHIMIZU Kazuhiro	4. 巻 78
2. 論文標題 Slaves in the Middle Eastern Islamic World and Mediterranean Slavery	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Memorirs of the Resarch Deapartment of the Toyo Bunko	6. 最初と最後の頁 5-20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 YAMASHITA Shoji	4. 巻 119
2. 論文標題 Sogdians during the Period of Division in North China in the Sixth Century as Depicted in Chinese-Language Epitaphs	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ACTA ASIATICA: Bulletin of the Institute of Eastern Culture	6. 最初と最後の頁 91-109
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 真下裕之	4. 巻 15
2. 論文標題 ムガル帝国宮廷における贈与儀礼とマンサブ制度	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 メトロポリタン史学	6. 最初と最後の頁 49-99
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 真下裕之監修 (二宮文子・真下裕之・和田郁子訳)	4. 巻 47
2. 論文標題 アブル・ファズル著『アーイーニ・アクバリー』訳注(8)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 紀要 (神戸大学文学部)	6. 最初と最後の頁 81-128
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24546/81012056	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山下将司	4. 巻 15
2. 論文標題 朱耶氏と沙陀三部落 唐末の代北におけるテュルク・ソグド軍団	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 メトロポリタン史学	6. 最初と最後の頁 25-48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山下将司	4. 巻 69
2. 論文標題 漢文墓誌より描く六世紀華北分裂期のソグド人	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本女子大学紀要 文学部	6. 最初と最後の頁 41-54
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 前田弘毅	4. 巻 15
2. 論文標題 特集にあたって 武を担った人びとの「ユーラシア的展開」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 メトロポリタン史学	6. 最初と最後の頁 1-7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 杉山清彦	4. 巻 15
2. 論文標題 コメント シンポジウム「世界史の中の武人」によせて	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 メトロポリタン史学	6. 最初と最後の頁 139-143
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計33件(うち招待講演 19件/うち国際学会 12件)

1. 発表者名 SUZUKI Kosetsu
2. 発表標題 Notes on the Ancient Turkic Inscription of Khirgishiin-Ovoo and the Turks, of Twelve tribes
3. 学会等名 The 12th INTERNATIONAL CONGRESS OF MONGOLISTS (第12回 国際モンゴル学会議)(国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 MAEDA Hirotake
2. 発表標題 Slave Soldiers Who Cannot Understand the "Iranian Ways": The Cases of the Safavid Gholams
3. 学会等名 International Workshop Military Elites in the Early Modern Islamicate World and Beyond (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 舩田善之
2. 発表標題 “色目人”研究的展開及其意義：兼論“漢人”形成史的展望
3. 学会等名 “文集・土人・社会：宋元史研究的新探索”工作坊(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 鈴木宏節
2. 発表標題 遊牧国家突厥の君主と軍制 王権の構築と継承
3. 学会等名 公開オンラインシンポジウム「武人×帝国×ユーラシア 統合と包摂のダイナミズム」(招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 伊藤一馬
2. 発表標題 北宋の蕃兵とその運用：「軍事」・「辺境」・「異民族」
3. 学会等名 公開オンラインシンポジウム「武人×帝国×ユーラシア 統合と包摂のダイナミズム」(招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 前田弘毅
2. 発表標題 サファヴィー帝国の「奴隷軍人」にみる帝国と辺境　　バラタシュヴィリ家のサガ
3. 学会等名 公開オンラインシンポジウム「武人×帝国×ユーラシア　　統合と包摂のダイナミズム　　」(招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 伊藤一馬
2. 発表標題 「東部ユーラシア」と「宋代中国」
3. 学会等名 第59回日本アルタイ学会(野尻湖クリルタイ)(国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 杉山清彦
2. 発表標題 中央ユーラシアと東部ユーラシア：方法としての地域、舞台としての地域
3. 学会等名 The 1st International Conference of the Institute of Humanities Korea Plus at Dongguk University: The Dynamics of East Eurasian Material and Culture (招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 清水和裕
2. 発表標題 イスラーム帝国：保護/隷属の回路と「イスラーム」帝国
3. 学会等名 日本オリエント学会第63回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 MAEDA Hirotake
2. 発表標題 Vakhushti Khan and Georgians in Khuzestan
3. 学会等名 Ilia State University G. Tsereteli Institute of Oriental Studies International Webinar History of Georgians in Khuzestan (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 舩田善之
2. 発表標題 近年における「色目人」研究の展開：「漢人」形成史への展望を兼ねて
3. 学会等名 中国四国歴史学地理学協会2021年度大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 柳谷あゆみ
2. 発表標題 ザンギー朝の解体と存続：「バイト」の変容
3. 学会等名 三田史学会大会東洋史部会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 杉山清彦
2. 発表標題 複合国家としての大清帝国 マンジュ(満洲)による集塊とその構造
3. 学会等名 2020年度歴史学研究会大会合同部会「「主権国家」再考Part3 帝国論の最定位」(招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 船田善之
2. 発表標題 色目人再論：「元代四階級制」説のその後
3. 学会等名 第75回東洋史学研究会大会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 MAEDA Hirotake
2. 発表標題 A Note of Aleksandre Orbeliani on Kng Erekle II and Nadir Shah
3. 学会等名 International Conference Archival Studies, Source Studies :Trends and Challenges (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 MAEDA Hirotake
2. 発表標題 A Date on the Ascension of King Teimuraz I and its Surroundings from the Description of Tarikh-e 'Abbasi
3. 学会等名 International Conference The Middle East and Caucasus. Culture, History, Politics, G. Tsereteli Institute of Oriental Studies (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 清水和裕
2. 発表標題 イスラーム帝国アッバース朝における「周縁」と改宗者
3. 学会等名 広島史学研究会大会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 清水和裕
2. 発表標題 9-10世紀ユーラシア西部のイスラーム社会からみた「スィーン」と東部ユーラシア：彼方の中国・我らのソグド
3. 学会等名 唐代史研究会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 真下裕之
2. 発表標題 ムガル帝国宮廷における贈与儀礼とマンサブ制度
3. 学会等名 メトロポリタン史学会第15回大会シンポジウム「世界史の中の武人 越境と帝国秩序」（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山下将司
2. 発表標題 唐末の農牧接壤地帯におけるテュルク・ソグド集団 朱耶氏と沙陀三部落
3. 学会等名 メトロポリタン史学会第15回大会シンポジウム「世界史の中の武人 越境と帝国秩序」（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山下将司
2. 発表標題 戦乱の中のソグド人 漢文墓誌より描く6世紀華北分裂期のソグド人
3. 学会等名 第64回国際東方学者会議・東京会議（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 舩田善之
2. 発表標題 鉄門関の南と北：2019年3月ウズベキスタン巡検記
3. 学会等名 第56回日本アルタイ学会（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 舩田善之
2. 発表標題 蒙元帝国の統治秩序：再論色目人
3. 学会等名 色目（回回）人与元代多元社会国際學術研討会暨2019年中国元史研究会年会（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 伊藤一馬
2. 発表標題 北宋仁宗時期的对西夏戰略与信息伝遞
3. 学会等名 移動・流動と互動：跨域的歴史与歴史的跨域 東亜地区青年学者遼宋夏金元史国際研討会（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 伊藤一馬
2. 発表標題 北宋の「辺境軍事社会」としての対西夏前線地域」
3. 学会等名 第222回宋代史談話会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 柳谷あゆみ
2. 発表標題 カーディー・アルファーデイルの書簡群：特徴と用途
3. 学会等名 第26回イスラーム初期史研究会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計26件

1. 著者名 YANAGIYA Ayumi	4. 発行年 2023年
2. 出版社 Brill	5. 総ページ数 263
3. 書名 Alex Mallett(ed.) : Arabic Textual Sources for the Crusades (The Muslim World in the Age of the Crusades, Volume: 5) (Bahal'al-Din Ibn Shaddad and al-Nawadir al-sultaniyya wa-l-mahasin al-Yusufiyya, pp.204-226)	

1. 著者名 舩田善之	4. 発行年 2023年
2. 出版社 暨南大学文学院中国文化史籍研究所	5. 総ページ数 593
3. 書名 “文集・士人・社会：宋元史研究の新探索” 工作坊論文集（「“色目人” 研究の展開及其意義：兼論“漢人” 形成史的展望」執筆、鄒笛訳, pp.54-76）	

1. 著者名 小松久男（編者代表）梅村坦、坂井弘紀、林俊雄、前田弘毅、松田孝一（編者）	4. 発行年 2023年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 774
3. 書名 『中央ユーラシア文化事典』（編集及び「ジョージア/グルジア」「近世カトリック宣教団」「ルスタヴェリ」「奴隷交易（コーカサス）」「アルメニア商人」「ジョージア/グルジア語」「ジョージア/グルジア文学」「ムツヘタ」「ジョージア/グルジア人」「プロッセ」項目執筆）	

1. 著者名 杉山清彦	4. 発行年 2023年
2. 出版社 山川出版社	5. 総ページ数 230
3. 書名 君主号と歴史世界 (「ハン・ハーン・皇帝 中央ユーラシアと東アジアのなかの大清君主号」執筆, pp.29-50)	

1. 著者名 伊藤一馬	4. 発行年 2023年
2. 出版社 勉誠社	5. 総ページ数 291
3. 書名 五代十国：乱世の向こうの「治」 (「定難軍節度使から西夏へ：唐宋変革期のタングート」執筆, pp.257-270)	

1. 著者名 鈴木宏節	4. 発行年 2023年
2. 出版社 集英社	5. 総ページ数 728
3. 書名 アジア人物史第3巻 ユーラシア東西ふたつの帝国 (「突厥とソグド人 唐帝国をゆるがした草原とオアシスの民」執筆, pp.307-362)	

1. 著者名 清水和裕	4. 発行年 2023年
2. 出版社 集英社	5. 総ページ数 728
3. 書名 アジア人物史第3巻 ユーラシア東西ふたつの帝国 (「イスラーム帝国アッバース朝の確立と変容」執筆, pp.525-581)	

1. 著者名 伊東貴之（編）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 汲古書院	5. 総ページ数 948
3. 書名 東アジアの王権と秩序（杉山清彦「大清帝国の王権と君主位：マンジュ王権としての一試論」571-585分担任執筆）	

1. 著者名 Rudi Matthee ed.	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 766
3. 書名 The Safavid World (Hirotake Maeda, "Against all odds: the Safavids and the Georgians", 125-143)	

1. 著者名 櫻井智美、飯山知保、森田憲司、渡辺健哉（編）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 322
3. 書名 元朝の歴史（船田善之「元代「四階級制」説のその後：「モンゴル人第一主義」と色目人をめぐって」19-30分担任執筆）	

1. 著者名 守川知子（編）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 272
3. 書名 都市からひもとく西アジア（柳谷あゆみ「二つの春の母」モスルの十二・十三世紀：ザンギー朝下の建設と破壊」32-47分担任執筆）	

1. 著者名 荒川 正晴（責任編集）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 322
3. 書名 中華世界の再編とユーラシア東部（鈴木宏節「トルコ系遊牧民の台頭」115-145分担当執筆）	

1. 著者名 古松崇志・伊藤一馬・井黒忍	4. 発行年 2021年
2. 出版社 研文出版	5. 総ページ数 169
3. 書名 金（女真）と宋（伊藤一馬「北宋の最強軍団とその担い手たち」67-108分担当執筆）	

1. 著者名 伊藤一馬	4. 発行年 2021年
2. 出版社 上海人民出版社	5. 総ページ数 439
3. 書名 平田茂樹・余蔚（編）『史料と場域：遼宋金元史の文献展開と空間体験』（「北宋時代の鄂尔多斯地区及其軍事意義」96-115執筆）	

1. 著者名 SUGIYAMA Kiyohiko	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Goettingen, V&R unipress	5. 総ページ数 312
3. 書名 Meumann, Markus, and Andrea Puehringer (eds.), The Military in the Early Modern World: A Comparative Approach (Herrschaft und soziale Systeme in der Fruehen Neuzeit: Bd. 26) ("A Chinese dynasty or a Manchu khanate? : The Qing (Ch'ing) Empire and its military force" 267-280)	

1. 著者名 古松崇志、白杵勲、藤原崇人、武田和哉編（杉山清彦分担執筆）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 336
3. 書名 金・女真の歴史とユーラシア東方（「ジュシェンからマンジュへ 明代のマンチュリアと後金国の興起」310-325分担執筆）	

1. 著者名 岸本美緒編（真下裕之分担執筆）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 山川出版社	5. 総ページ数 281
3. 書名 歴史の転換期6 1571年 銀の大流通と国家統合（「ムガル帝国の形成と帝都ファトゥフブルの時代」128-174分担執筆）	

1. 著者名 齋藤 晃、ギジェルモ・ウィルデ、折井 善果、新居 洋子、中砂 明德、真下 裕之、岡田 裕成、小谷 訓子、岡 美穂子、網野 徹哉、鈴木 広光、王寺 賢太、金子 亜美	4. 発行年 2020年
2. 出版社 名古屋大学出版会	5. 総ページ数 554
3. 書名 宣教と適応 グローバル・ミッションの近世（「帝国のなかの福音：ムガル帝国におけるペルシア語キリスト教典籍とその周辺」236-283分担執筆）	

1. 著者名 草原考古研究会編（鈴木宏節分担執筆）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 368
3. 書名 ユーラシアの大草原を掘る（「石人」「突厥・ウイグルの遺跡」215-228、352-365分担執筆）	

1. 著者名 宋代史研究会編（伊藤一馬分担執筆）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 汲古書院	5. 総ページ数 462
3. 書名 宋代史研究会報告集（11）宋代史料への回帰と展開（「宋代における筍子の登場とその展開」329-361分担執筆）	

1. 著者名 国立台北大学歴史学系編（伊藤一馬分担執筆）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 国立台北大学歴史学系	5. 総ページ数 321
3. 書名 移動・流動与互動：跨域的歴史与歴史の跨域 東亜地区青年学者遼宋夏金元史国際研究会会議論文集（「北宋仁宗時期的対西夏戦略与信息伝遞」92-106分担執筆）	

1. 著者名 Buba Kudava and others (eds.) (Hirotake Maeda and Marina Aleksidze 分担執筆)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Artanuji (Tbilisi)	5. 総ページ数 822
3. 書名 Istoriani (“Some New Information on the Lives of Queen Ketevan” 278-286分担執筆)	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	清水 和裕 (Shimizu Kazuhiro) (70274404)	九州大学・人文科学研究院・教授 (17102)	
研究分担者	真下 裕之 (Mashita Hiroyuki) (70303899)	神戸大学・人文学研究科・教授 (14501)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	前田 弘毅 (Maeda Hirotake) (90374701)	東京都立大学・人文科学研究科・教授 (22604)	
研究分担者	舩田 善之 (Funada Yoshiyuki) (50404041)	広島大学・人間社会科学研究科(文)・准教授 (15401)	
研究分担者	柳谷 あゆみ (Yanagiya Ayumi) (90450220)	公益財団法人東洋文庫・研究部・研究員 (72622)	
研究分担者	山下 将司 (Yamashita Shoji) (50329025)	日本女子大学・文学部・准教授 (32670)	
研究分担者	鈴木 宏節 (Suzuki Kosetsu) (10609374)	神戸女子大学・文学部・准教授 (34511)	
研究分担者	伊藤 一馬 (Ito Kazuma) (90803164)	大阪大学・文学研究科・招へい研究員 (14401)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関